



令和6年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和5年9月8日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
コード番号 9636 URL <https://www.kin-ei.co.jp/>
代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)作田 憲彦
問合せ先責任者 (役職名)常務執行役員経理部長 (氏名)藤下 修 (TEL) 06(6632)4553
四半期報告書提出予定日 令和5年9月11日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和6年1月期第2四半期の業績(令和5年2月1日～令和5年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
6年1月期第2四半期	1,833	12.9	172	70.1	172	64.2	117	38.8
5年1月期第2四半期	1,624	12.9	101	9.1	104	△1.2	84	83.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
6年1月期第2四半期	42.29	—
5年1月期第2四半期	30.47	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
6年1月期第2四半期	5,612	2,410	43.0
5年1月期	5,765	2,319	40.2

(参考) 自己資本 6年1月期第2四半期 2,410百万円 5年1月期 2,319百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
5年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
6年1月期	—	0.00	—	—	—
6年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和6年1月期の業績予想(令和5年2月1日～令和6年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,510	4.9	210	20.1	210	14.3	125	0.3	44.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	6年1月期2Q	2,821,000株	5年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	6年1月期2Q	32,737株	5年1月期	32,625株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	6年1月期2Q	2,788,341株	5年1月期2Q	2,788,526株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費は持ち直し、企業収益は総じてみれば緩やかに改善しました。海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響が懸念されるものの、雇用・所得環境が改善する下で、景気は緩やかに回復しました。

この間、当社におきましては、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変更されたことに伴う事業環境の変化に対応しつつ、事業全般に亘って顧客満足度の高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図りましたところ、売上高は、前年同期に比較して12.9%増の1,833,887千円となりました。さらに、諸経費全般に亘って鋭意抑制に努めました結果、営業利益は70.1%増の172,988千円、経常利益は64.2%増の172,402千円、四半期純利益は38.8%増の117,927千円となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では、“名探偵コナン 黒鉄の魚影 (サブマリン)” “ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー” “THE FIRST SLAM DUNK” “映画ドラえもん のび太と空の理想郷 (ユートピア)” “劇場版 TOKYO MER～走る緊急救命室～” “滝沢歌舞伎 ZERO FINAL” “君たちはどう生きるか” “「鬼滅の刃」 上弦集結、そして刀鍛冶の里へ” “東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編” “わたしの幸せな結婚” などの作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」などの周辺施設と連携し、タイアップイベントを積極的に行うなど販売促進活動に注力しました。また、娯楽場事業におきましては、昨年11月にアポロビル4階にG i G Oをオープンし、劇場と一体となった集客を一層推進いたしました結果、部門全体の収入合計は828,733千円となり、営業原価控除後では、91,352千円の営業利益となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、空調機整備工事、新規テナント誘致に伴う防災設備、給排水設備等の諸工事を実施し、ビルの機能強化を図りました。また、ルシアスビルにおいて、特高電気室設備機器、空調制御設備、蓄電池の更新工事および冷温水機、空調機の整備工事などに計画的に取り組み、より安全・快適なビルづくりを推進しました。また、賃貸収入の確保に向けて、空室部分への後継テナント誘致に注力しました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めた部門全体の収入合計は、1,005,153千円となり、営業原価控除後では228,371千円の営業利益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、固定資産の減価償却等により前期末に比較して153,652千円減少し、5,612,208千円となりました。

負債は、設備関係未払金の減少等により、前期末に比較して244,866千円減少し、3,201,442千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して91,214千円増加し、2,410,765千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して8,839千円増加し、84,462千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、税引前四半期純利益の計上及び減価償却費等により200,803千円となりました。前年同期と比較しますと、未払金の減少等により142,966千円収入額が減少しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で使用した資金は、固定資産の取得等により126,198千円となりました。前年同期と比較しますと、短期貸付金が減少したことにより111,169千円支出額が減少しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で使用した資金は、長期借入金の返済等により65,765千円となりました。前年同期と比較しますと、183千円支出額が増加しております。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、シネマ・アミューズメント事業部門では、あべの・天王寺エリア唯一の映画館「あべのアポロシネマ」への一層の集客を目指し、魅力ある作品の上映に努めるとともに、安心・快適な環境で映画を楽しんでいただけますように計画的な設備等の更新に取り組んでまいります。さらに、周辺商業施設との共同販売促進策を積極的に推進し、また、簡単・便利な「チケット予約システム」、格安で映画をご覧いただける映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」をアピールし、集客に努めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持・向上による賃貸収入の確保を図るのとはもとより、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図るとともに、省エネルギー化にも十分に配慮し、より安全で快適な環境づくりに努めてまいります。加えて、「あべのアポロシネマ」との連携を推進し、さらなる集客に注力してまいります。

通期の予想につきましては、売上高は3,510百万円（前期比4.9%増）、営業利益は210百万円（前期比20.1%増）、経常利益は210百万円（前期比14.3%増）、当期純利益は125百万円（前期比0.3%増）となる見込みであります。なお、令和5年3月14日に「令和5年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高、営業利益および経常利益をそれぞれ30百万円増額し、当期純利益を25百万円増額しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和5年1月31日)	当第2四半期会計期間 (令和5年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	75,622	84,462
売掛金及び契約資産	109,940	104,863
商品	3,823	4,041
その他	704,658	620,390
貸倒引当金	△730	△630
流動資産合計	893,315	813,128
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,715,511	2,646,031
機械及び装置（純額）	41,968	39,065
工具、器具及び備品（純額）	79,664	64,272
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	20,370	-
有形固定資産合計	3,981,263	3,873,118
無形固定資産	31,020	18,326
投資その他の資産		
差入保証金	815,746	851,962
その他	44,514	55,673
投資その他の資産合計	860,261	907,636
固定資産合計	4,872,545	4,799,080
資産合計	5,765,860	5,612,208
負債の部		
流動負債		
買掛金	92,761	117,481
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	75,000	75,000
未払法人税等	36,852	60,258
賞与引当金	8,800	7,200
その他	674,801	411,754
流動負債合計	1,238,215	1,021,694
固定負債		
長期借入金	318,750	281,250
退職給付引当金	60,451	62,527
受入保証金	1,533,934	1,542,517
資産除去債務	290,000	290,000
その他	4,957	3,454
固定負債合計	2,208,093	2,179,748
負債合計	3,446,309	3,201,442

(単位：千円)

	前事業年度 (令和5年1月31日)	当第2四半期会計期間 (令和5年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,838,166	1,928,210
自己株式	△111,508	△111,889
株主資本合計	2,315,013	2,404,676
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,537	6,089
評価・換算差額等合計	4,537	6,089
純資産合計	2,319,551	2,410,765
負債純資産合計	5,765,860	5,612,208

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 令和5年2月1日 至 令和5年7月31日)
売上高	1,624,717	1,833,887
営業原価	1,379,090	1,514,163
営業総利益	245,627	319,724
一般管理費	143,901	146,735
営業利益	101,725	172,988
営業外収益		
受取利息	751	882
受取配当金	194	204
違約金収入	4,833	759
雑収入	1,000	453
営業外収益合計	6,779	2,299
営業外費用		
支払利息	3,530	2,881
雑支出	2	4
営業外費用合計	3,533	2,886
経常利益	104,970	172,402
特別利益		
休業等の要請に伴う協力金	※1 20,080	-
特別利益合計	20,080	-
特別損失		
固定資産除却損	2,271	1,154
特別損失合計	2,271	1,154
税引前四半期純利益	122,779	171,248
法人税、住民税及び事業税	39,331	55,508
法人税等調整額	△1,516	△2,187
法人税等合計	37,815	53,320
四半期純利益	84,963	117,927

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 令和5年2月1日 至 令和5年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	122,779	171,248
減価償却費	161,094	152,230
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△91	△100
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△100	△1,600
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	2,775	2,075
受取利息及び受取配当金	△945	△1,086
支払利息	3,530	2,881
休業等の要請に伴う協力金	△20,080	-
固定資産除却損	2,271	1,154
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	24,923	5,076
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△2,647	△12,977
仕入債務の増減額 (△は減少)	17,762	24,719
未払金の増減額 (△は減少)	△36,839	△113,220
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	88,985	13,423
その他	666	△8,346
小計	364,085	235,479
利息及び配当金の受取額	957	1,116
利息の支払額	△3,572	△2,894
協力金の受取額	20,080	-
法人税等の支払額	△37,779	△32,897
営業活動によるキャッシュ・フロー	343,770	200,803
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△113,932	△162,525
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△94,420	97,212
差入保証金の増減額 (△は増加)	△13,788	△36,215
受入保証金の増減額 (△は減少)	1,407	△1,743
その他	△16,633	△22,927
投資活動によるキャッシュ・フロー	△237,367	△126,198
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△37,500	△37,500
配当金の支払額	△27,885	△27,883
その他	△196	△381
財務活動によるキャッシュ・フロー	△65,582	△65,765
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	40,820	8,839
現金及び現金同等物の期首残高	84,524	75,622
現金及び現金同等物の四半期末残高	125,345	84,462

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

※1 休業等の要請に伴う協力金

前第2四半期累計期間(令和4年2月1日から令和4年7月31日まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた大阪府からの休業等の要請に応じたことによる協力金を、休業等の要請に伴う協力金として特別利益に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(令和4年2月1日から令和4年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	565,743	—	565,743	—	565,743
ビル共益費等収入	—	197,089	197,089	—	197,089
娯楽場及びその他事業収入	57,412	12,509	69,921	—	69,921
顧客との契約から生じる収益	623,155	209,598	832,754	—	832,754
その他の収益	—	791,962	791,962	—	791,962
外部顧客への売上高	623,155	1,001,561	1,624,717	—	1,624,717
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	623,155	1,001,561	1,624,717	—	1,624,717
セグメント利益	21,967	223,659	245,627	△143,901	101,725

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(令和5年2月1日から令和5年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	723,378	—	723,378	—	723,378
ビル共益費等収入	—	195,659	195,659	—	195,659
娯楽場及びその他事業収入	105,355	12,399	117,755	—	117,755
顧客との契約から生じる収益	828,733	208,059	1,036,792	—	1,036,792
その他の収益	—	797,094	797,094	—	797,094
外部顧客への売上高	828,733	1,005,153	1,833,887	—	1,833,887
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	828,733	1,005,153	1,833,887	—	1,833,887
セグメント利益	91,352	228,371	319,724	△146,735	172,988

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。